秋田魁新報　2021年07月29日付　秋田市

保線作業の流れ、興味津々

JR羽後牛島駅・日中に見学会

秋田工高2年生 枕木交換、線路修正学ぶ

線路を保守点検する「保線作業」に関心を持ってもらおうと、鉄道関連の事業を手掛ける第一建設工業秋田支店（秋田市）は26日、同市のJR羽後牛島駅で高校生を対象に現場見学会を開いた。秋田工業高土木科の2年生31人が参加し、大型機械を使った保線作業の流れを学んだ。

夜間に行われるため目にすることが少ない保線作業の様子を知ってもらい、職業としても興味を持ってもらおうと企画。社員が線路の構造や修繕が必要になるケースを解説したほか、作業に使用される車両を実際に動かしながら工程を紹介した。

このうちレールの下に敷かれている枕木の交換では、線路と道路の両方を走ることができる重機「軌陸バックホー」が登場。枕木周辺に敷き詰められた「バラスト」と呼ばれる石をかき分けて隙間をつくった後、枕木を少しずつ横にずらしながらレールから引き抜いて交換していった。

続いて登場したのは線路のゆがみを直す「マルチプル・タイタンパー（MTT）」。ゆがみを計測した後に線路を浮かせ、周囲のバラストを突き固めることで正常な状態に戻していく車両だ。

社員は「線路は日々列車が通ることで、少しずつ上下左右にゆがみが生じる」と解説し、MTTが走行の安全性と乗り心地の良さを確保するために重要な役割を担っていることを紹介した。生徒たちは大きなMTTが行う細やかな作業に見入っていた。

参加した佐藤冬真さん（16）は「土木は人力のイメージだったが、想像以上に機械化されていて驚いた。学んだ内容は、今後の授業や進路を考える際の参考にしていきたい」と話した。

（田村璃子）

車内で作業員（右）から説明を受ける生徒

線路のゆがみを修正する車両「マルチプル・タイタンパー」

大型車両の下ではゆがみを修正する細やかな作業が行われていた

©秋田魁新報社